

しほんちゃくしよくはちじょうでんしゃしんぞう 紙本着色八條殿社神像

昭和46年3月16日 八潮市指定有形文化財（絵画）

個人蔵

八條殿社は、八條氏を祀り八條領35か村の鎮守だったといわれるが、明治42年（1909）に八條八幡神社に合祀され廃社となった。祀られている八條氏については、鎌倉期の八條左大臣良輔や地頭八條五郎光平、室町期の八條（上杉）房繁などの諸説がある。

八條房繁は馬術を得意とし、八條流の流派をおこしたとされる室町時代後期の馬術家で、市域の八條郷に住したと近世の馬術書に伝える。当時の

関東では、一流の馬術者として有名で、父祖伝来の馬術に加えて、小笠原植盛に師事し、永正5年（1508）甲斐源氏に伝わる馬芸の印可を得て新たに八條流を開いた。多くの門弟を育て、八條流は関東一円に広まった。木村長光の描いた肖像画によれば、房繁は白馬を好み內衣は紺地、袴は浅黄であったといい、八條殿社神像掛軸に描かれる馬上姿の「八條様」の神像に酷似していることなどから、当地とのつながりが連想される。



◎公開の有無：非公開